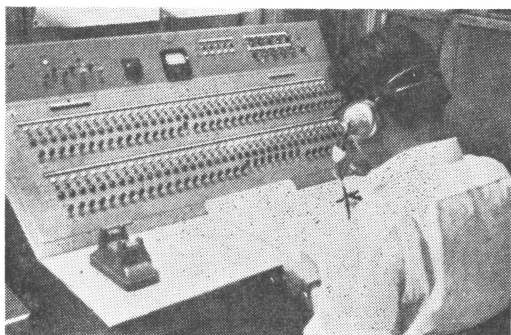


## 地方だより

## 気象庁予報部通報課



同時送話

ご存知の東京というマンモス都会の紹介からはじまると、とてもこの頁には入りきれない。人と車と、高層ビル建築の騒音の渦巻く中で、ニューモードが風を切っている街。

地方の方などが、時折上京されると、その度毎に東京のキリョウが、良くなるというのか悪くなるというのか、とに角、下手な整形手術をしたみたいに、あっちがふくらんだり、こっちの川が埋まったり、まさに忙しい話である。

交通事故—死亡何件負傷何件というケイサツの立札も日毎夜毎に車の洪水を、あっちへヒラリ、こっちへヒラリと、今様牛若よろしく、かわし、とびこえて息をしている都会人には、サッパリ不感症で、立ち止って見る人もいない。たまには恋しい人と待ち合わせて、新聞の求人広告まで読みつくし、ハテ何か読むものは——と、たまたま、頭を廻らすと、この立看板。それぞれ遠い外国の出来事みたいに読み流すことができるようになったら、都会生活十年選手というところらしい。

「マンモス東京。いいとこネーじやネーか」とおっしゃる方は、都電なら錦町河岸、国電なら神田で降りて——いや押し出されて——例の鉄塔たよりに気象庁へ、昔ながらの**オンボロ庁舎**、加えて夏の暖房完備の防弾建築。（たまよけのたてものですよ——念のため申し上げておきますが、かの有名なゼンガクレンと泣く子もだまる四機動が、近くでチョウチョウハツシと渡り合うために防弾にしたのではありません）。とうとう我慢がなくなって、7階建だか8階建だかのビルを作るんだそうだけれど、今のところは、リバイバルと、ノスタルジアを好む方にはまず絶好の場所。

その防弾建築の2階で、わが通報課の職員がぐるぐる動きまわっている。生まれて既に11年、世の気象部門は、ミリ波レーダーだの、704電子計算機だの科学の先端を行っているけれども、文字通り10年1日。プロットだの、放送だの、外国気象報の調査だの縁の下の力持ちをくり返している。

はじめの頃は、PRが下手なものだから、予報課と思われたり、通信課の出店だと思われたり、苦勞したけれど、隠忍自重、その間にいやしくもこと気象報に関しては、内外を問わず調べつくしているので、ようやくその内容が理解されてきた昨今では、気象放送よろず承り所となり、気象通報式相談所となり、加えて、北半球資料交換組織の完成と相俟って、国際的スケジュールやらコンテンツやら、国際的にも重要な一部門になって、まさに多忙倍増というところ。また、気象報の内容が少しでもよかれと、気象官署はもちろん船舶漁船からくる電報の監査、指導をやっているがこれも人に知られない仕事の1つであろう。

折角の地方だよりの欄が、我田引水になって、申し訳ありませんが、まあ何はともあれ、大都市東京には東京なりの、口でいえないいいところがあるらしく、ビルの音が気にならない神経と、車をかわす多少の運動神経さえあれば、まず住めば都。

（松村 彰）



現業天気図作業